

会長就任挨拶

2016年5月26日

日本製薬団体連合会 会長
多田 正世

このたび、日本製薬団体連合会（日薬連）会長にご選任いただきました多田正世でございます。会長という大役を仰せつかり、光栄に思うと共に責任の重さに身の引き締まる思いです。就任にあたり一言ご挨拶申し上げます。

まず、前会長である野木森様に御礼申し上げます。野木森前会長におかれましては、高齢者人口の増加に伴い、さらなる質の高い効率的な医療が必要とされる中、医薬品産業の発展に多大なる貢献を頂きました。特に、新薬創出・適応外薬解消等促進加算制度の試行継続とともに、基礎的医薬品の薬価維持ルールの導入、セルフメディケーション推進税制の導入など、産業全体に関わる重要な薬価制度及び税制改革の実現に取り組んで頂きました。強いリーダーシップを発揮されましたご活躍に対し、心から敬意と謝意を表すると共に、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

日薬連は、業態別 15 団体と地域別 16 団体の 31 団体で構成され、医薬品産業全体を網羅する団体です。医療費をはじめとする社会保障関係費のさらなる増加が見込まれる中、加盟団体の果たすべき役割は、保健医療制度を維持させ、国民の健康増進に貢献することにあります。そのためには、革新的新薬・再生医療等による新しい治療法の創出や良質なジェネリック医薬品の普及による経済的貢献は不可欠です。またワクチンによる疾病予防の充実、早期発見・早期診断を実現する診断薬の提供、OTC 医薬品・家庭薬によるセルフメディケーションの拡大も必要です。加えて、高い品質の輸液・血液製剤・漢方・眼科用剤・外用製剤等の安定供給も継続しなければなりません。

ご承知の通り、我が国は世界で数少ない新薬創出国であり、政府の成長戦略において成長産業の柱の一つとして位置付けられています。2015 年に厚生労働省により策定された「医薬品産業強化総合戦略」に言及されている通り、医薬品産業に求められるのは、「国民への良質な医薬品の安定供給」、「医療費の効率化」、「産業競争力の強化」を三位一体で実現することです。

これらを同時に実現するための必須な要素は、加盟各団体がカバーしておられる各領域において継続的にイノベーションが創出されることと考えます。イノベーションこそ医薬品産業の成長の「原点」です。革新的新薬の創生によってアンメット・メディカル・ニーズが満たされ、新たな製法や製剤・投与形態の開発によって、患者様の満足度や医療費の節減、そして産業競争力が向上します。創生された新薬は、時を経て、その役割を、順次、後発医薬品、OTC 医薬品、基礎的医薬品へとバトンタッチし、産業全体の成長が実現するのです。この様なイノベーションサイクルに加え、今後は、ICTやビッグデータの活用による患者様ニーズに合致したソリューションを提供する事や、既存のシステムや制度の変革によって新たな価値を生み出す事が、我々には求められると考えます。

そのため、各加盟団体が日薬連という組織の中であっても、それぞれの独自性・独立性を活かし、イノベーションの創出に邁進いただくと共に、各団体がそれぞれお持ちのミッションの実現にむけて主体的に活動していただくことを期待しています。その上で、日薬連は、薬価、税制、他各種制度等、各団体共通の課題に関し、各団体のご意見に耳を傾け、「医薬品産業強化総合戦略」で示された三つの要請を、バランスよく実現できるよう、努力していきたく思います。

2016 年度の薬価制度改革は医薬品産業にとって厳しい結果となりました。国民皆保険制度を維持するために、社会保障制度の財源確保が重要であることは十分理解しております。しかしながら、社会保障関係費の伸長を薬価引下げによる財源捻出で手当てするという対応を続けていると、医薬品産業は疲弊し、良質な医薬品の安定供給や、産業の競争力が確保できなくなります。

私達は、健康長寿社会の形成と日本経済の成長に、真に貢献できる産業になりたいと強く願っています。この為には「医薬品のイノベーションを推進する」という視点がもう少し加味された、バランスのとれた産業政策が必要と考えます。

医薬品産業を取巻く環境が激変する中、今後 2 年間、只今申し上げた様な視点に立って、加盟各団体のご代表各員や政府、関係省庁、政治家の方々との対話を重視しながら、日薬連会長としての職務を遂行してまいりたいと存じます。加盟団体のご代表各員におかれましては、引続き日薬連業務に絶大なるご支援を賜りますことをお願い申し上げて、就任のご挨拶とさせていただきます。

以上